

組 番 氏名

森山小学校では、児童会活動として「ホタルの住む水辺」を大切にしている。森山地区を「ホタルの町」にするために、地いきの「森山ホタルの会」といっしょに、「ごみ拾いや川岸の草取りなどを行っています」。

実行委員の川田さんたちは、「ごみ拾いや草取りの他にも活動を加えたいと考えています。そこで、ゲンジホタルについて調べたことをもとにして今年の取組を考え、学年朝会で六年生に提案することにしました。」

まず、図鑑でゲンジホタルのことを調べました。



資料ア

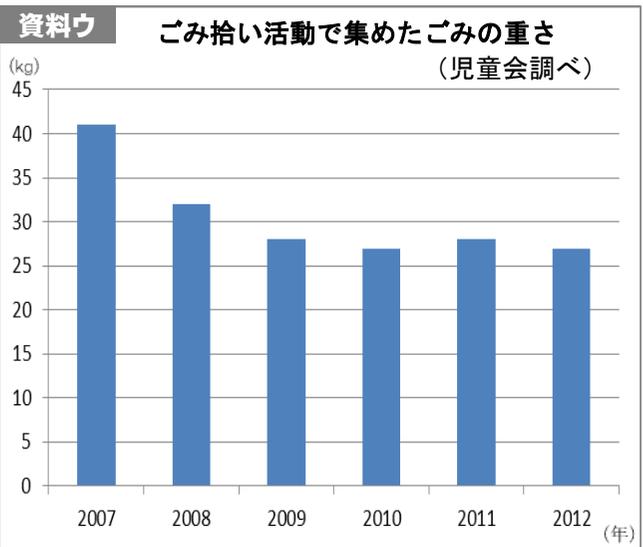
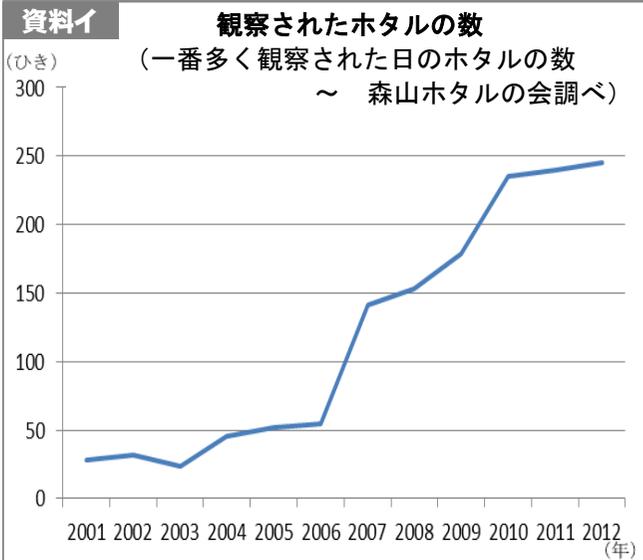
図鑑「昆虫」より

【ゲンジホタル】 昆虫・カブトムシ亜目・ホタル科

体長は十二〜十八ミリメートル。体は黒色。胸と背は赤色で、黒色の十字型のもようがある。発光器をもち、オス、メスの両方が光る。五月下旬から七月にかけて羽化したメスは、川岸の落ち葉やコケに卵をうむ。成虫は一週間程度生きる。幼虫のときは水の中で育ち、主にカワニナなどの巻き貝をえさにする……

※「羽化」→サナギから成虫になること

次に、観察されたホタルの数の変化や、集めたごみの量、「森山ホタルの会」の取組などを調べました。



- 資料エ 川岸のごみ拾い活動で集めたごみの種類 (2012年 児童会調べ)
- 空きカン
 - たばこのすいがら
 - おかしのふくろ
 - 紙ごみ
 - ペットボトル
 - 牛乳パック類
 - はりがねなどの金属
 - ビニルぶくろ
 - カップラーメンの容器

- 資料オ 森山小学校の周りでホタルが減った理由 (森山ホタルの会調べ)
- 川岸をコンクリート化したこと。
 - 下水整備前、生活排水が川に流された時期があったこと。
 - 農薬をまいたことなどにより、カワニナが減ったこと。
 - 住宅地を作るために土砂が川に流れこんだ時期があったこと。
 - 観察者がホタルをつかまえてしまったこと。

- 資料カ 「森山ホタルの会」の活動
- ごみ拾い
 - 川岸の草取り
 - 「かん板」づくり
 - 「回らん板」づくり
 - 幼虫とカワニナの調査
 - ホタルの観察会
 - 水質調査

川田さんのグループは、地いきの「森山ホタルの会」の山本さんにインタビューをしました。
【インタビューの様子】

川田さん わたしたち児童会は、毎年「草取り」や「ごみ拾い」をいっしょにさせていただいている
すが、山本さんたちはどのような願いや考えがあつて活動をしていらっしゃるのですか。

山本さん 森山地区が「ホタルの町」になることを願って活動しています。ホタルを守ることは、人
間をふくめたすべての生き物にとって住みやすい環境をつくることにつながるのだ、という
ことを自分に言い聞かせていますよ。そのため、できるだけ自然に近い形を守るように気
を付けています。相手は自然に生きる昆虫なので、あまり手をかけすぎはいけません。
また、ホタルだけを守ってもいけないわけです。

川田さん 何か困っていることはありますか。

山本さん 二つあります。一つ目は、なかなかごみがなくならないことですね。水辺に捨てたごみや、
台所から流される油や飲み物などが、ホタルの命にかかわっていることを分かってもらいた
いですね。二つ目は、ホタルを見る人でマナーがよくない人がいることですね。

鈴木さん 今年、児童会では、「草取り」や「ごみ拾い」のほかに、さらにできることに取り組みたい
と考えています。どのようなことができるでしょうか。アドバイスをしていただけませんか。

山本さん すばらしいですね。回らん板を使ったお願いをしたり、かん板を使った呼びかけをしたり
できたらよいと思いますよ。

鈴木さん なるほど。回らん板では、具体的にどのようなことをお願いしたらよいのでしょうか。

山本さん 森山地区を「ホタルの町」にするために、地域の人に油や飲み物などを流さないことや、
ごみを捨てないことなどをお願いするとよいと思います。みなさんが調べたとおり、ホタル
は幼虫のころはAの中で成長します。ですから、Aがよごれてしまつたらだいなし
です。台所から流す油や飲み物に気を付けてもらうことが大切です。また、川岸にご
みを捨てて、よごしてしまつたらホタルが卵をうむことができませぬ。川岸にごみを捨てな
いようにお願いするのも大切ですよ。

川田さん 回らん板のことは分かりました。かん板はどのようなことを呼びかけるのでしょうか。

山本さん ホタルを見に来る人にマナーを守ることを呼びかけることが大切です。わたしは、ホタ
ルを見に来る人たちがごみを捨てていく様子を何度も見えています。また、ホタルは、見に来
る人がライトで照らしたり、つかまえたりすることでも数を減らしてしまいます。そういう
ことをやめてもらうために、かん板はとても大切だと思えますよ。

鈴木さん よく分かりました。回らん板やかん板を作ることを提案してみます。

資料キ 【取材メモ 1】

<山本さんの願いや考え>

- ・ 森山地区を「ホタルの町」にすること。
- ・ ホタルを守ることは、すべての生き物にとって住みよい環境をつくることにつながる。
- ・ 自然に近い形を守る。
- ・ あまり手をかけすぎてはいけません。

資料ク 【取材メモ 2】

<困っていること>

- ・ ごみがなくなること。
- ・ 水辺に捨てたごみや、台所から流される油や飲み物がホタルの命にかかわっているのを分かってほしい。
- ・ 見に来る人でマナーがよくない人がいること。

資料ケ 【取材メモ 3】

<回らん板を使ったお願い>

- ・ 地いきの人にお願ひする。
- ・ 「ホタルの町」にするため。
- ・ 台所から油や飲み物を流さないこと。
- ・ 水がよごれたらだいなしだということ。
- ・ 川岸にごみを捨てないこと。

資料コ 【取材メモ 4】

<かん板を使った呼びかけ>

- ・ ホタルを見に来る人たちへ呼びかける。
- ・ マナーを守ること。
- ・ ごみを捨てないこと。
- ・ ライトで照らさないこと。
- ・ ホタルをつかまえないこと。

問い一 「資料ア」から「資料カ」を読んでも分からないことはどれですか。一つ選んで [] に番号を書きましよう。

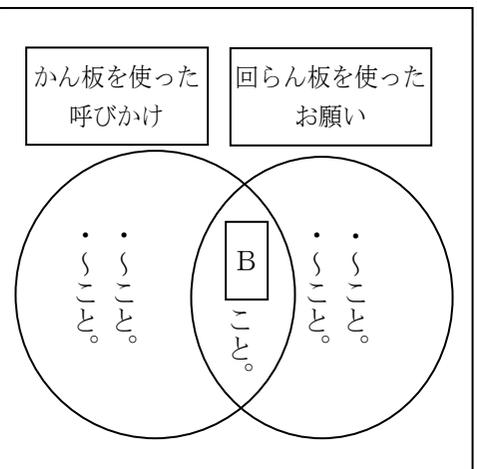
- ① 毎年集めたごみは、二十五kg以上である。
- ② 六月にもホタルを見ることができる。
- ③ 観察されるホタルの数は増えてきた。
- ④ ごみは「空きカン」が一番多い。
- ⑤ カワニナが減ると、ホタルも減る。

問い二

[A]にはどのような言葉が入りますか。
当てはまる言葉を、下の [] に書きましよう。

問い三 川田さんのグループでは、左の図を使って「資料ケ」と「資料コ」を整理しました。その結果、共通点
が分かりました。

[B]にはどのような言葉が入りますか。「〜こと」「〜こと」につながるように、左の [] に書きましよう。



実行委員会では、調べたことやインタビューしたことをもとに、毎年取り組んでいる草取りやごみ拾いのほかに、今年は回らん板を使ったお願いや、かん板を使った呼びかけもすることにしました。

そこで川田さんは、回らん板を使ったお願いに取り組むことを提案するために意見文を書き、学年朝会で六年生に発表することにしました。

【川田さんのスピーチ原稿】

実行委員会では、毎年行っている「草取り」や「ごみ拾い」のほかに、今年は回らん板を使ったお願いにも取り組みことを提案します。なぜなら、森山地区を「ホタルの町」にするためには、地いきの人の協力が必要だと考えるからです。

まず、ゴミを捨てないことをお願いしたいと思います。 [] 地いきのみなさんがごみを捨てないようにすることは、ホタルが卵をうむ川岸を守るために大切なことだと考えます。

次に、川の水をよごさないためにできることをお願いします。 「資料オ」にあるように、川の水がよごれたことでホタルの数が減ったことが分かっています。台所から油や飲み物を流さないようにすることは、川をきれいにするために、わたしたちにもできることです。それを地いきのみなさんへ呼びかけたいと思います。このように、回らん板を使って地いきの人にお願ひすることで、地いきの人と協力してホタルを守る活動ができると考えます。

問い四 鈴木さんは、川田さんの原稿を読んで、説得力のある提案にするためには、 [C] に事実を加えた方がよい、とアドバイスをしました。「資料ウ」をもとにして、左の [] に一文で書きましよう。

「資料ウ」にあるように、

問い五 あなたは、かん板を使った呼びかけに取り組むことを提案するために意見文を書き、六年生へ発表することになりました。

左の表の条件を満たした意見文を書きましょう。

【条件】		【構成メモ】	
条件①	三五九字をこえるまで書くこととします。ただし、四〇〇字以内で書きましょう。 ※ 題名や名前は書かずに、一行目から書き始めましょう。	始め	1 だん落
条件②	「始め・中・終わり」の構成で、 四だん落 で書きましょう。	中	2 だん落
条件③	資料ア～コの中から、 二つ以上の資料 を選んで使いましょう。文章の中に「資料アから～」「資料イにあるように～」などと 記号を入れましょう 。	中	3 だん落
条件④	資料の言葉や数値、グラフの変化などには自分の 考えを加えて 使いましょう。	中	4 だん落
※ 意見文を書く前に、下の構成メモを使って構成を考えましょう。 メモは探点しません ので、自由に使ってください。		終わり	4 だん落
		始め	1 だん落
		中	2 だん落
		中	3 だん落
		中	4 だん落

今年、かん板を使った呼びかけにも取り組むことを提案します。なぜなら（ ）と考えるからです。

まず、（ ）を呼びかけます。

・ 資料の記号

資料から分かること（事実）

資料から考えられること（あなたの意見）

次に、（ ）を呼びかけます。

・ 資料の記号

資料から分かること（事実）

資料から考えられること（あなたの意見）

このようにかん板を使って見に来る人たちに呼びかけることで、（ ）と考えます。

